

安全・安心な県産飼料を水田から！飼料用米の品種・栽培法の確立

【研究のポイント】

近年、国内で飼料価格が高騰する中、水田を利活用できる飼料用米に注目が集まっています。
飼料用米で輸入濃厚飼料を代替するためには、低価格で供給するとともに、栄養価の面から米のタンパク質含有率を高める必要があります。
水田農業グループでは、大分県に適する飼料用米の品種として、「ホシアオバ」を選定するとともに、低コストでタンパク質含有率を高める栽培法を確立しました。



大分県の気候条件に適し、収量が多く、栽培しやすい特性(倒伏しにくい、病害虫に強い、熟す時期が遅すぎない等)を持つ「ホシアオバ」を適品種として選定しました。

表 飼料用米品種「ホシアオバ」と主食用品種「ヒノヒカリ」の比較

品種名	移植期	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	収量 (kg/a)	倒伏 程度	玄米 タンパク質 含有率(%)
ホシアオバ	6月下旬	8/26	10/21	98	21.6	279	91.8	微	6.8
ヒノヒカリ	6月下旬	8/25	10/13	88	18.9	399	74.8	少	7.3

1) 水田農業グループ(宇佐市)場内試験3ヶ年の平均値を表す。

2) 収量は精籾重の値を表す。

また、「ホシアオバ」の栽植密度と施肥法(肥料の量や施用時期)、収穫時期を検討し、低コストで高収量・高品質な飼料用米を生産するための栽培法を確立しました。

【研究の成果】

【低コスト・高品質のポイント】

低コスト化を目指し、費用を削減できる栽培法を確立しました。

- ① 栽植密度:「ホシアオバ」は平坦地・中山間地ともに坪当たり50株の疎植にすることで、苗の必要量を減らせます。
- ② 立毛乾燥:成熟期後7~10日程度ほ場で乾燥させることで籾水分を低下させ、乾燥費用を減らせます。
- ③ 施肥量:従来の穂肥に加え、晩期穂肥を施用することで玄米タンパク質含有率が大きく向上します。

これらの結果をまとめ、栽培指針を作成しました。

本県の飼料用米の作付面積は平成19年0.5haから平成23年900ha以上に拡大しており、水田作の重要な品目のひとつとなっています。

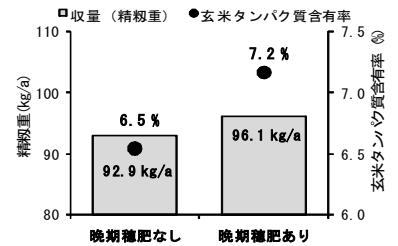
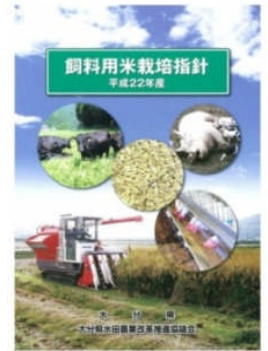


図 ホシアオバに晩期穂肥を施用した際の収量とタンパク質含有率



【生産者の声】



飼料米は、23年から作付けしていますが、23年産では収穫時に倒伏が激しく、苦勞しました。今回の研究結果は品種を選ぶ上で大変参考になりました。今後も畜産農家に対して安定した供給ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

竹田市 佐藤徳三さん

【実需者の声】

トウモロコシの代替飼料として交雑種肥育牛に与えていますが、嗜好性もよく、体重も増加傾向にあります。年間同一価格で契約している飼料用米はコスト計算がしやすく、飼料価格が高騰している現在では割安な状況です。
今後も継続して活用していきたいと考えていますので、生産農家の安定供給に期待しています。

豊後高田市 仲井光則さん



【連絡先】

農林水産研究指導センター 農業研究部 水田農業グループ 作物栽培チーム
TEL:0978-37-1160